

# 子どものユーモアに関する研究（その3）

奥 田 倫 子

## I. は じ め に

筆者は1987年度より、子どものユーモアに関する研究に取り組んできた。その第一回目では、まずユーモアとは何かを明らかにすることから始め、筆者なりに子どものユーモアについて仮説を立て、これより研究を進めていく方向づけとした。さらに欧米で近年盛んに行われるようになってきた子どものユーモア研究を、特に発達諸理論との関わりを中心にまとめ、考察した（奥田、1987）。第二回目では、子どものユーモアの観察事例をもとに検討することにし、McGhee and Lloyd（1982）らの研究を参考に、事例を整理分析し、幼児期の発達における意味づけを考察した。その際、事例を言葉によるユーモア（1. 言葉の不一致やナンセンスによるもの、2. 言葉のリズムや音によるもの、3. 排泄や性に関する言葉、4. 言葉によるからかい）と行動によるユーモア（1. おどけた恰好をすること、2. いたずら、3. 不一致を引き起こすこと、4. 排泄や性に関する行動、5. 行動によるからかい）のカテゴリーに分類し、検討を計った（奥田、1988）。

今回の研究では、前回観察事例で見られた子どものユーモアの特徴が、幼児期の発達と結びついて全般的に見られるものか、あるいは個人差があるのか、より具体的に分析、考察を進めていく。また個人差がある場合には、何によって生まれるのか、その原因についても明らかにしていきたい。

## II. 方 法

### 1. 研究の対象及び期間

本研究は、金沢市内のB保育園において、1989年4月より実施している。B保育園は、一人ひとりを大切に、自発性や感性を育てることを保育の中心に据えている園である。保育形態は、年齢別に3歳未満児1クラス、3、4歳児3クラス、5歳児1クラスに分かれているが、保育内容によって解体や縦割保育を行い、クラスや年齢を越えた交流、育ち合いを図っている。さらに1990年度より学童保育も実施しており、地域に根ざした保育も特徴の一つである。

実施期間は、1989年の4月より1990年11月まで、月に約2回程度の割合で（園の行事や保育実習と重なる時期を除く）、夕方1時間程度観察を行った。尚、筆者の勤務時間の関係上、訪問した時間には対象児が既に帰宅している場合もあったが、出来るだけ等しく観察記録が収集できるよう配慮した。合計25日間であった。

個人差が何によって生じるのかを明らかにするために、対象児の発達との関わりの中で探っていく必要があると考え、縦断的研究法で実施することにした。1989年度には3歳未満児クラス（17名）より2歳児約10名を抽出、翌年には3、4歳児クラス（3クラスで計58名）で引続き観察を実施した。今回は特に、男児4名（A男、B男、C男、D男）と女児2名（A子、B子）計6名を研究対象とし、まとめてみることにする。各対象児の生年月日、家族構成については以下のとおりである。

A男……S61. 4. 18（母、兄、叔父）	A子……S61. 9. 17（父、母、姉）
B男……S61. 8. 26（父、母、姉2名）	B子……S61. 5. 23（父、母、姉）
C男……S61. 10. 16（父、母、兄）	D男……S61. 8. 7（父、母、姉）

## 2. 研究の方法

研究は、次のような手続きで実施した。

### 〔その1〕

自然観察法で対象児の言動を記録した。対象児がおかしさを生み出したり、感じとっているものを中心に収集した。記録は筆記とVTR収録を同時に進行し、正確で信頼性の高い記録を採集していくよう心掛けた。また観察の際、園児らが接触を求めてきた場合は、簡単な受け答えをする程度に関わることにしたが、時には一緒に遊ぶこともあった。筆者なりにその子どもをどのように受け止め、心持ちに触れたかを大切に、かつ主観的になり過ぎないためにも、VTR収録を繰り返し見るようにし、客観的な見方を持つよう努力した。なお担任保母らとは、観察終了後30分程度の話し合いを持ち、筆者が見聞きしたことを確認したり、対象児の普段の様子を伺う上での参考とした。さらに1990年7月より担任保母らの協力を得て、対象児のユーモア言動として特に気付いたことを個人記録用紙にメモしてもらうようにした。記録は一事例記入できる程度の大きさを考え、B5用紙の4分の1サイズで、対象児名、日時の記入欄のある簡単なものを作成した。

### 〔その2〕

対象児を全般的に把握するためには、単にどのようなユーモアを生み出しているかを調べるだけでなく、どのようなユーモアをおかしいと感じとり、おかしさを理解できるかについても調べる必要がある。一般にユーモアのセンスを調べるには、creating（創造する）、appreciating（感知する）、understanding（理解する）の3つの側面から分析する必要があるとされている。このことを考慮し、特にappreciatingとunderstandingについては、ユーモラスな絵本を読み聞かせ、その反応をビデオ撮りし、検討することにした。

絵本の選定は、次の4つの要素のいずれかを含み、かつ年少児から年中児を対象としたものの中から行った。結果として、『みんな うんち』『ハバードばあさんといぬ』『ママ、ママ、おなかがいたいよ』『おばけがぞろぞろ』以上4冊を選出することにした。

(1) 排泄や性に関するもの……『みんな うんち』

(2) 不一致やナンセンスを……『ハバードばあさんといぬ』『おばけがぞろぞろ』

含むもの 『ママ、ママ、おなかがいたいよ』

(3) 言葉のリズムや音の面……『みんな うんち』『ハバードばあさんといぬ』

白さを含むもの 『おばけがぞろぞろ』

(4) おばけに関するもの……『おばけがぞろぞろ』

(1)から(3)までは、筆者が前回子どものユーモアのカテゴリーとして掲げたものに基づいている。(4)はカテゴリーに直接該当しないが、子どもによく楽しまれる題材として取り上げた。しかし“おばけ”とは、場合によって“笑い”より“恐れ”と結びつくため、他の項目と多少異なった性質を持つ。それぞれの絵本の特徴、ストーリーを簡単に以下に記す。

ア.『みんな うんち』（五味太郎作）

幼児期に関心度の高い“うんち”を科学的な視点から捉え、いろいろな動物の“うんち”を取り上げている。ユーモラスなイラストと、リズムカルな言葉の繰り返しによって、楽しく“うんち”を学ぶことが出来る。

イ.『ハバードばあさんといぬ』（ポール・ガルドン絵 中山知子訳）

マザーグースの一つ。ナンセンス絵本。おばあさんが買物から帰ってくると、犬がパイプくわえていたり、子猫をあやしていたりなど、擬人化、意外性が面白い。

ウ.『ママ、ママ、おなかがいたいよ』（レミー・チャーリップ作・絵、パートン・サプリー作、つばいいくみ訳）

「ママ、ママ、おなかがいたいよ」と男の子。母親が医者を呼び、医者は男の子の膨らんだお腹からボール、バースデーケーキ……さらにはお皿、兎、靴、自転車まで次々と取り出す。最後にこれで解決と思ったら、男の子がいつのまにか医者帽子まで飲み込んでいたのが面白い。絵はページの片開きが影絵になっており、何が出てくるのかワクワクさせてくれる。

エ.『おばけがぞろぞろ』（ささきまき作）

木の幹から「びろ～ん」と出てきたおばけが、遊び仲間のおばけを誘いに出掛け、仲間は転がっている瓶の中から、水道の蛇口からと意外な場所から次々現れる。おばけには、「ぞぞまるちゃん」「おびるべちゃん」などナンセンスな名前が付けられ、ユーモラスな姿形で描かれている。「にゅーう」「いえい！」など言いながら出てくるおばけはどことなく憎めず愛嬌がある。

〔その3〕

観察記録と絵本反応記録の分析方法を以下に述べる。

#### a. ユーモア観察記録の分析方法

前回掲げた子どものユーモアのカテゴリーをもとに、記録分析の表を作成し、その中で観察記録を評定した。各記録について、それぞれのユーモアのカテゴリーに該当する場合、×を記入した。また、ユーモアを生み出した場合と反応した場合を区別できるように、後者は特に(×)と記した。

#### b. ユーモア絵本反応記録の分析方法

絵本の読み聞かせは同一絵本について数回行ったため、その比較ができるように、反応記録

一覧表を作成した。この場合、場の雰囲気や読み聞かせをする保母のユーモアのセンスが結果に影響を及ぼすことにも留意し、単なる笑いや微笑の頻度だけではなく、場の雰囲気も伝わるように、対象児以外の言動も記録することにした。

この一覧表を対象児ごとに分析できるように、平井信義・山田まり子著の『子どものユーモア—おどけ・ふざけの心理—』(p.121)を参考に、分析の表(対象児のユーモア絵本に対する反応)を作成した。反応は、笑い、微笑、発言、行動に分け、絵本の内容に関連した反応のみを取り上げ、それぞれの回数を記入するようにした。さらに次のことを考慮した。前に述べたように、読み聞かせでは周囲の影響を多かれ少なかれ受けており、例えば子どものユーモアへの笑いや微笑み反応が、その周囲の子どもとの間の親密性に影響を受けることが実験によって示されている(Foot, Chapman and Smith, 1977)。また周囲の歓喜に影響を受け、笑いが伝染しやすいことが、幼少期のユーモアの特徴と言われている(例えば McGhee, 1979)。このことから、周囲の影響を厳密に調べるのは難しいとしても、他人に直接働きかけられて表出する笑いや微笑みを調べる必要がある。例えば、絵本の内容を面白がった子どもが、隣の子どもに微笑みかけ、相手が微笑みを返す場合などである。以上のことから、周囲の子どもより直接働きかけられて表出する反応数を、括弧で記入することにした。

〔その4〕

以上の分析結果より示されたユーモアの個人差が、何によって生み出されたのかを探るために、対象児の生育暦、家庭環境、発達の状態と照らし合わせて考察することにした。方法としては、今回はB保育園で独自に作成した「園児調査表」、金沢市内私立保育園共通の個人情報である「児童の発達状況」(3歳未満児用)と「保育経過記録」(3歳以上児用)を使用することにした。これらの評価は、そのまま用いるのではなく、特に保母が記述した指導上の留意事項を中心に、参考資料として用いることとする。

### Ⅲ. 結 果

これより、ユーモアの観察記録とユーモア絵本反応記録、及びそれぞれの分析結果について、順に示していくことにする。

#### 1. ユーモア観察記録とその分析結果

ユーモアの観察記録とその分析結果は、次のとおりである。対象児別にまとめ、記すこととする。なお観察記録は紙面のスペースの関係上、考察で取り上げたものに限って示す。

### 子どものユーモアに関する研究（その3）

（A男の記録から）

#### 記録 4

おやつが終わった時、保育は子どもたちのごちそうさまでしたの音が小さかったので、「あれっ聞こえない」と言う。するとA男の兄は「ごちそうさま」とどなり、A男も少しにやりと笑って真似をしてどなる。

（1989. 5. 18）

#### 記録 8

A男は向かいの座席の年長の男児らに、「ちっこ」と言い笑う。男児ら「ちっこってなあに？」、A男「おしっこ」、男児ら「おしっこってなあに？」……A男は紙ナプキンを丸めて口にあて、「うーうーうー」と言う。男児ら「うーうーうーってなあに？」……A男は紙ナプキンを自分の頭の上にのせ、「紙男」と言う。男児ら「紙男ってなあに？」、A男「えっと、ばか」……。

（1989. 6. 8）

#### 記録 25

朝の集合で一列に並んでいる時に、A男はB男に「きたねー（汚い）」と言い、叩く。F男にも「F男もきたねー、お鼻出すからきたねー」と言い、B子には「こいつって、だら（馬鹿）や」と言う。

（1990. 3. 20）

（A子の記録から）

#### 記録 4

A子は巧技台の上におもちゃの車を走らせながら、「ポッポー、ポッポー、ポッポー、ポッポー、汽車ポッポー」「どんどん、がったーん、どんどん、がったーん」「がったんこー、がったーん」等、音を上げ下げしながらリズムカルに歌う。

（1989. 5. 18）

#### 記録 24

おやつの時間。A子は隣のE子に「見とってみん（見てて）」と言い、牛乳の紙パックにさしてあるストローを指で押さえて離す。するとストローが飛び出て、A子はウフフと笑う。後ろに振り向き、他の女児にも同じことをして見せ、ウフフと笑う。

（1989. 11. 1）

（B男の記録から）

#### 記録 10

B男は白いブロックを組み立てながら「だいこんをつめて、はーこんで、はこんで、だいこんをつめて、はこーんだもーん」と節を付けて歌う。また「B保育園がびちゃびちゃになって、たぬきのしまーしまーしまーままま、ぼくらをのせてポポポポビポポ、ポロポロポローン、神さまのおだい、おだりさまのちんちん、おれのちんちんだ、おれのうんこだ、バカタレ、ピーカピーカ、バカタレ」「ホラホラホーヤ、バカバカバカバーカ、ピカピカピーカ、ホレホレハーレ、パパイヤパパイヤパーヤ」とリズムカルに歌う。

（1990. 3. 20）

（B子の記録から）

#### 記録 1

おやつの時間に、子どもたちは互いに自分の持っているポテトチップスが割れているかどうか尋ね合っている。B子は隣のテーブルの子どもたちに向かって「割れとるか（割れているか）、割れてないか」と尋ね、E子が大きな声で「割れとる！」と答えると、B子はニッコリ笑い、両手を広げて隠し持っていたチップスが割れていることを見せ「アッハッハ」と笑う。その後、再び隣のテーブルの子どもたちに尋ね、チップスを両手で二つに割り、「あーっ、割れたー！」と笑いながら言う。

（1990. 1. 9）

#### 記録 14

A男、A子、F男、C子が集まって何色のターボレンジャになるか役割分担していると、K男がやってきて「K男、仮面ライダー」と言う。C子は右手と右足を上げ、笑いながら「仮面ライダー？」と聞き返し、それを繰り返す。そしてケンケンをし「どてーどてー」と言い大笑いする。C子は「ねえ、ねえ、K男ちゃん、仮面ライダーだって」とF男に言うと、F男は笑いながら後ろにそるようにして床に崩れ落ちる。B子はその様子を見て大笑いし、両手を両耳の横につけてブラブラさせ、「どてー」と言う。

（1990. 2. 13）

奥 田 倫 子

(C男の記録から)

記録 5

保母が「C男君、いい子だねー」と褒めると、「バカバカしいナー」と言い、照れて逃げていく。(1990. 8)

記録 9

午睡後。音楽がかかり、子どもたちは次々に起き出す。C男は自分の布団の上に座り、「わぁーお」と吠えるように叫ぶ。しばらくして、両手で鳥のくちばしのような恰好をつくり、「こけこっこ、こけこっこー」となく。

(1990. 11. 9)

(D男の記録から)

記録 3

A子がダルマに「あっぷっぷ」と言っていてにらめっこしているのを見て、D男はニコッと笑いながら「あっぷ」と何度も繰り返し、最初は保母に、次にD男の姉に向かって言う。

(1989. 6. 29)

記録 5

D男は向かいの席の男児が「最高、ハイ」と言ったのを聞き取り、ミルク瓶をその男児の方へと動かし、顔を覗き込むようにして笑いながら「しゃいこーう、ハイ」と3度繰り返す。「なに、お前のなんか」と乱暴に言われるが、にこにこ笑っている。

(1990. 1. 9)

記録 6

D男は隣に座っている女兒が話を始めると、「うるさーい」と言う。それを聞いた女兒は「うるさーいやて(うるさーいだって)」と笑って言う。するとH子がやって来てD男に向かって何か尋ねる。D男は笑いながら「うるさーい」と答える。H子は笑って「面白いやろ(面白いでしょ)」と傍にいるB男に言い、共に笑う。その後H子とB男は「これなんかな?」「うんこある?うんこでた?」と次々にD男に質問し、D男は「うるさーい」と答える。

(1990. 11. 1)

ユーモア観察記録の分析結果は以下のとおりである。対象児別に示す(表1～6)。

表1 A男のユーモア記録の分析

ユーモアの種別		記録番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
言葉のユーモア	言葉の不一致やナンセンスによるもの									X												
	言葉のリズムや音によるもの				X(X)					X												
	排泄や性に関する言葉									X												
	言葉によるからかい			X												X						
行動のユーモア	おどけた恰好をすること	X(X)					(X)		X		X			X		X	X(X)	X(X)	X			
	いたずら		X			X(X)		(X)		X			X							X	X	
	不一致を引き起こすこと																		X		(X)	
	排泄や性に関する行動											X										
行動によるからかい				X												X						

ユーモアの種別		記録番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	合計
言葉のユーモア	言葉の不一致やナンセンスによるもの		X													X					3
	言葉のリズムや音によるもの															X					3(1)
	排泄や性に関する言葉										(X)	X		X(X)							3(2)
	言葉によるからかい					X						X(X)		(X)							4(2)
行動のユーモア	おどけた恰好をすること			X							(X)										9(5)
	いたずら				X				X						X		X	X	X	X	13(2)
	不一致を引き起こすこと	(X)			X		X	X(X)				(X)				X		X	(X)		6(5)
	排泄や性に関する行動										(X)					X	X				3(1)
行動によるからかい						X															3

子どものユーモアに関する研究（その3）

表2 A子のユーモア記録の分析

ユーモアの種類	記録番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
言葉のユーモア	言葉の不一致やナンセンスによるもの										X(X)					(X)					
	言葉のリズムや音によるもの	X			X		X	X													
	排他や性に関する言葉																				
	言葉によるからかい																				
行動のユーモア	おどけた恰好をすること						X														
	いたずら					X				X					(X)		X		X(X)		
	不一致を引き起こすこと		X(X)	X					X(X)			X	(X)	X				(X)		X	(X)
	排他や性に関する行動																				
	行動によるからかい																				

ユーモアの種類	記録番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	計
言葉のユーモア	言葉の不一致やナンセンスによるもの										1(2)
	言葉のリズムや音によるもの										4
	排他や性に関する言葉						(X)				0(1)
	言葉によるからかい										0
行動のユーモア	おどけた恰好をすること					X					2
	いたずら		X								5(2)
	不一致を引き起こすこと	X		(X)	X	(X)		X	(X)	(X)	9(9)
	排他や性に関する行動										0
	行動によるからかい										0

表3 B男のユーモア記録の分析

ユーモアの種類	記録番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	計
言葉のユーモア	言葉の不一致やナンセンスによるもの				X					X	X				3
	言葉のリズムや音によるもの						X	X		X					3
	排他や性に関する言葉									X		X			2
	言葉によるからかい			X			X					X(X)			3(1)
行動のユーモア	おどけた恰好をすること					X			X						2
	いたずら												(X)		0(1)
	不一致を引き起こすこと	X	X	(X)									(X)		2(2)
	排他や性に関する行動														0
	行動によるからかい														0

表4 B子のユーモア記録の分析

ユーモアの種類	記録番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
言葉のユーモア	言葉の不一致やナンセンスによるもの								(X)						(X)				X		
	言葉のリズムや音によるもの																				
	排他や性に関する言葉																				
	言葉によるからかい																				
行動のユーモア	おどけた恰好をすること		(X)			X							X		X(X)						X
	いたずら				X					X(X)	X	X(X)		X						(X)	
	不一致を引き起こすこと	X(X)		(X)			(X)	X(X)								(X)	(X)	X			
	排他や性に関する行動																				
	行動によるからかい																				

奥 田 倫 子

ユーモアの種類		記録番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	計
言葉のユーモア	言葉の不一致やナンセンスによるもの	(X)						X			X		3(3)
	言葉のリズムや音によるもの												0
	排泄や性に関する言葉												0
	言葉によるからかい												0
行動のユーモア	おどけた恰好をすること		X	X	X								7(2)
	いたずら					X(X)							6(4)
	不一致を引き起こすこと				(X)			(X)	(X)		(X)		3(10)
	排泄や性に関する行動												0
	行動によるからかい												0

表5 C男のユーモア記録の分析

ユーモアの種類		記録番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	計
言葉のユーモア	言葉の不一致やナンセンスによるもの					X	X								X	3
	言葉のリズムや音によるもの		X									X				2
	排泄や性に関する言葉															0
	言葉によるからかい											X	X			2
行動のユーモア	おどけた恰好をすること	X		X	X		X				X	X	X		X	8
	いたずら							X	X							2
	不一致を引き起こすこと													X		1
	排泄や性に関する行動															0
	行動によるからかい															0

表6 D男のユーモア記録の分析

ユーモアの種類		記録番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
言葉のユーモア	言葉の不一致やナンセンスによるもの							X					1
	言葉のリズムや音によるもの	X		X		X							3
	排泄や性に関する言葉						(X)						0(1)
	言葉によるからかい						(X)						0(1)
行動のユーモア	おどけた恰好をすること		X									X	2
	いたずら							(X)		X	X(X)		2(2)
	不一致を引き起こすこと				(X)			(X)	(X)				0(3)
	排泄や性に関する行動												0
	行動によるからかい												0



# 子どものユーモアに関する研究 (その3)

## 2. ユーモア絵本反応記録とその分析結果

ユーモア絵本反応記録は次のとおりである (表7~10)。又その分析結果を対象児別に記す (表11~16)。

表7 絵本「みんなうんち」の反応記録一覧表

文	年月日*	1990年6月18日	子どもの言動****	1990年11月8日
	保育者**	保母A	保母C	
	対象児***	B子 (ばら組)	A男・A子・B男・B子・C男・D男・(F男)	
	みんなうんち (表紙)		A子:「えーっ」と言い笑う。 B男:口を横に開いて笑う。「みんなうんち?」と何度も繰り返す言う。 B子:「あーっ」と口を大きく開け、笑う。 A男、C男:クスッと笑う。 D男:微笑む。 F男:身を乗り出して笑う。	
	みんなうんち (中表紙)		B子:口を大きく開けて笑う。 A男:絵本を指し、「あっ、熊さんのうんこや」 B子:「フッフ」と笑う。 F男:目を見開く。 A子:「みんなうんち」と言い、ニコリと笑う。 A男:「うさぎのうんこや、うさぎ」と少し笑って言う。	
	おおきい ぞうは おおきい うんち	男:「わあ、くせー」 B子:絵本を覗き込むようにし、口を開けて笑う。 男:自分の鼻をつまむ。 E男:自分の鼻をつまみニヤリと笑う。	F男:伸び上がり、驚いたような目をする。 A男:笑いながら「ぞう」と言う。 D男:後ろを振り向き、A男を見てニコリ笑う。 A子、B男:少し微笑む。	
	ちいさい ねずみは ちいさい うんち		B男:口もとで「ち」と言い、ニコリ笑う。 F男、A子:ニコリ笑う。	
	ひとこぶらくだは ひとこぶ うんち	E男:首を傾けてニヤッと笑う。	A男:身を乗り出して見る。 B男:口を大きく開け、その後ニコリ笑う。 F男:驚いたような表情。 B子:ニコリ笑う。	
	ふたこぶらくだは ふたこぶ うんち	男:微笑んで見ている (1、2人)	B子:口もとでニコリ笑う。 C男、A男:口もとを覆める。 A子、B男:ニコリ笑う。	
	これは うそ!		B男:ニコリ笑いながら「これはうそ」と言う。F男の顔を笑いながら見る。	
	さかなも うんち とりも うんち むしも うんち		B男:笑いながら文を出して読む。「ち」のところで、笑ってF男の顔を見る。 A男:「むち (虫)」「あれむちじゃない?」とニコリ笑って言う。	
	いろんな どうぶつ いろんな うんち	男:「げっ、くせー」と言い、鼻をつまむ。 E男:鼻をつまむ	B男:笑いながら声を出して読む。 A男:「あーっ」と言い、口を大きく開け、目を細めて笑う。	
	いろんな かたち いろんな いろ いろんな におい	B子:身を乗り出して見る。 男:「げっ、くせー」と言う。 E男:その男児を見て、鼻をつまむ	B男:笑いながら声を出して読む。 A男:ニコリ笑って、鼻をつまむ。 F男:鼻をつまむ	
	へびの おしり は どこ?	男:「しっば」と言い、その部分を指す。保母が「ここかしら」と言って指すと、「うん」と頷く。 E男:頷く。	F男、B男、A男:「へびや」 F男、A男:指でおしりの方を指す。 C男:前に出てきて、直接絵を指す。	
	くじらの うんちは どんなの?	男:手を大きく回し、「こんなの、大きい」と言う。 (2、3名) E男:右手を大きく回す。	B男:保母より先取りして声を出して読む。C男:「でっかい」と少し微笑んで言う A男:「でっかい、もっとすげーでっかい、ぞうさんよりもすげーでっかい」と笑って言う。	
	とまって うんち	男:「えへ」と言い、笑う。E男:少し口を開けて笑う	B男とA男:同時に「とまってうんち」と言う。A男:ニヤリと笑う。 B男:少し笑う。	
	あるきながら うんち		B男:先取りして声を出して読む。 B男、A男:同時に「あるきながらうんち」と言い、顔を見合わせてニコリ笑う。	
	あちらこちらで うんち		B男:先取りして声を出して読む。 B男、A男:ニコリ笑う。 B男:「うんちいっぱい」と笑って言う。	
	きめたところで うんち	男:「便所」と言う (数名)。	B男:ニコリ笑い、声を出して読む。	
	おとなも うんち こどもも うんち おまるで うんち おむつで うんち	男:ニヤッと笑う。	B男:笑いながら「おむつもうんち」 A男:ニコリ笑い「あーあかちゃんや」 B男:ニコリ笑い「あーあかちゃんや、おむつでうんち」	
	うんちをしても しらんかお	男:「ねねっ、猫ってうんちしたら、うんちどっかに隠すん?」	A男:ニヤッと笑う。 B男:保母より少し遅れて声を出して読む。	
	うんちをしたら あとしまつ		A男:「きったないー」と2度繰り返して、ニヤッと笑う。 B男:保母より少し遅れて声を出して読む。	
	みずで うんち みずのなかで うんち	男:「いやー、汚ねーなー」 男:「汚ねー」	A男:ニヤッと笑い「きったないー」	
	かみで ふいて、みずを ながして、...		B男:先取りして言い、にやりと笑う。 A男:ニヤリと笑う。	
	いきものは たべるから みんな うんちをするんだね		B男:ニコッと笑い、先取りして声を出して読む	

\*ユーモア絵本を読み聞かせた年月日

\*\* ユーモア絵本を読み聞かせた保母

\*\*\*研究対象児。括弧は読み聞かせに参加した子ども (クラス)

\*\*\*\* 絵本の内容と直接関連のある言動。下線は研究対象児の言動

## 奥 田 倫 子

表8 絵本「ハーバードばあさんといぬ」の反応記録一覧表

年月日	子どもの言動	
	1990年11月9日	1990年11月22日
保育者	保母C	保母B
対象児	A男・B男・B子・D男 (男1)	A子・B子・D男 (C子・G子・男2・男3・男4・女1)
ハーバードばあさん とだなを あけた いぬに ごちそう してやろう ところが とだなは からっぽだった やれ こまったね どうしよう		
そこで おばあさん パン かいに いっぱ かえてきたら いぬは しんでた		
そこで おばあさん かんおけやへ いっぱ かえてきたら いぬは わらってた	B男:「ハハッ」と笑う。隣のA男の顔をニコリ笑 って見る。 A男:目を細め、ニコリ笑う。	
そこで おばあさん おさら だしにいった かえてきたら いぬは パイプ くわえてた		
そこで おばあさん さかな かいに いっぱ かえてきたら いぬは おさら なめてた	B男:ニコッと笑う B男:「かえてきたらいぬはおさらなめてた」の文 を笑いながら声を出して言う。 A男:少しニコリ笑う。	女1:「へーへへへ」と笑う。 A子、B子:ニコッと笑う。
そこで おばあさん ビール かいに いっぱ かえてきたら いぬは いすに のってた	A男、B男:ニコリと笑う。	女1:「ウーフフフ」
そこで おばあさん ぶどうしゅ かいに いっぱ かえてきたら いぬは さかだちしてた	B男:ニコリと笑い、首を左右に揺さぶって「B男君 だてさかだちできるよ」と小さい声で言う。 A男:「ぼくだて」と小さい声で言う。	女1:「ぶどうしゅ かいに いっぱ」と聞くと、 「ウーッ」と笑う。 B子:「さかだちしてた」で「アハハハ」と笑う。 A子:「アハハハハ」「犬でさかだちしんよ(し ないよ)！」
そこで おばあさん ぼうし かいに いっぱ かえてきたら いぬは こねこ あやしてた	B男:「ぼうしかいにいった」と少し笑って言う。 「いぬは こねこ あやしてた」でニコリ笑 い、体を左右に揺さぶる。 A男、猫の寝のように両指を顔の横に突き出す。	女1:「あやしてたって、何や?」
そこで おばあさん かつら かいに いっぱ かえてきたら いぬは ダンスしてた	A男:「かつら?」と聞き返す(A男の兄の名前) B男:「だんちゅしてた」と保母より先取りして読む 「へえ、犬がダンチュするけ?人がダンチュす るよ」と笑いながら言う。	女1:「フフフ」 G子:「ダンスってでんよ、犬って!」 男2:ニコッと笑い、ドテツと崩れるように隣の男 児の方に倒れかかる。 A子:ニコッと笑い「犬ってあんなん(あんなの) でんよ」と絵を指し、G子の方を見て「ね っ」と言い、同意を求める。
そこで おばあさん フルーツ かいに いっぱ かえてきたら いぬは フルーツ ぶいてた	A男:「フフフフフ」と体をそらして笑う B男:ニコリ笑う。	A子:口もとでニコッと笑う。 G子:「あー!それ今日先生教えてくれた。 (フルートのこと)」
そこで おばあさん コート かいに いっぱ かえてきたら いぬは ゴートやきに のってた	B男:「ゴートやき」と回復。	G子:「あー!」と言って笑い、「犬ってそん なんしんよ(そんなのしないよ)」
そこで おばあさん くつ かいに いっぱ かえてきたら いぬは しんぶん よんでた	B男:「ハハハ」と笑い、「お父さん新聞読むがに、 なんで犬が新聞読むが?」	B子:「エヘヘヘ」 A子:「ブーッ」と言い、「犬って眼鏡かけんよー 」と目を細めて笑いながら言う。 男2:笑いながら、隣の男児によしかかり倒れる。 児の方に倒れかかる。
そこで おばあさん したぎ かいに いっぱ かえてきたら いぬは いとくり してた	A男:「下着」と言い、ニヤリと笑う。 B男:少しニコリ笑いながら「いとくり」と新しい 言葉を覚える時のようにゆっくりと言い、体を 一回転する。	A子:ニコッと笑う。 G子:「えーっ、そんなんできんよ」 A子:絵を指し「あー!犬ってあんなことできん よー」と笑いながら言う。
そこで おばあさん くつした かいに いっぱ かえてきたら いぬは おしゃれしてた		A子:目を細め笑いながら「おしゃれー」とゆっく り言う。 女1:「アハハ」 G子:「そんなんできんよー」 A子:「そうや」 B子:G子の方を見る。 男2:隣の男児に崩れかかる。
おばあさんは おおよろこび “なんでもしてあげよう” いぬは おじぎして “わん! そりゃ どうも” ハーバードばあさん このいぬ だいすき せかいで いちばん りこうな いぬだ		A子:“わん! そりゃ どうも”で「どえーっ」 と笑って言う。 読み終えた時、笑って「おしまい」と言う。

# 子どものユーモアに関する研究 (その3)

表9 絵本「ママ、ママ、おなかがいたいよ」の反応記録一覧表

	子どもの言動			
	年月日	1990年10月25日	1990年10月25日	1990年10月25日
	保育者	保育者A	保育者B	保育者C
対象児		B子 (ばら組)	A男 (きく組)	A子・D男 (ゆり組)
ママ、ママ、おなかがいたいよ (中表紙)		男:「エヘヘ」数名が笑う。 C子:後ろを振り向き、ニコッ と目を細めて笑う。		男:「これおもしろーい(面白いんだよ)
だれか わたしのほうしをみなかった?				女:手と首を振り、「みない」と言う。
ママ、ママ、おなかがいたいよ おいしゃさん よんで、 はやく、はやく、はやく。		C子:近くにいる男子を見てニ ヤッと笑う。 B子:C子の方を見て笑う。 男:「ハハハ」 E男:微笑む	女:ニコッとする	女:「ママ、ママおなかがいたいよ」でニヤッと笑い、絵本を指 しながら、隣の女児に話しかける。 I男:文を読み終えたところで「フフフ」と笑う。 R子:「自転車とか、スカートとか、」
せんせい せんせい、だいしきゅう…… よし、いますぐいく。しんぱい いらんぞ		女:ニコッとする。	男:隣の女児を見て ニコッとする	I男、R子、Y子を含み5名が笑う。
びょうきのことなら まかしてくれ…… わしにかかれば すぐなおる。				Y子:「針やて(針だて)」と言い、I男の方を見る。 R子:文を読み終えたところで「フフフ」と笑う。
ほれ ついた。 さて、びょうにんは いかがかな? せんせい、このこ あんなにふとって、 おなかがいたいって いうんです。 いいおくり ありますか?				I男:絵が提示されると、ニヤリと笑う。 女:「なにが はいってんらんだろ」のところで「そうや、ス カートとか入ってんらんだろ」とI男に言う。 R子:文を読み終えたところで「フフフ」とそりかえって笑う。 R子の隣の女児:ニコッとする。 I男:ニヤッと笑う。
とにかく はやく みてください…… こんなびょうき みたことないぞ。				I男:小さく「フフフ」と笑う。
一こもはやく にゅういんだ。 それいそげ!				A男:「あっ!でっかい いち(石)や。で っかいいち!」
ひとまず おなかなかを しらべてみよう。 なにが はいってんらんだろ。		男:「脚じゃない?」と 言う。		I男:絵が提示されるとニヤリと笑う。 R子:次の絵で「あじゃ、あじゃ、あーん」 と入るとか入るとるげんね」とI男に言う。 男:「自転車」と言う。
ははん、わかった。これだ、これだ。 これええとりだせば もう だいじょうぶ				I男:大きな口を開けて笑う。女:「自転車も入ってるとるげんね」 I男:「自転車も」 女:「自転車も食べてんよ」
たった一この あおりんごで…… ほら、また できた。				A子:「自転車も」 R子:「りんごや」 A子:「うーっ」と言い 口もとで微笑む。
ひとつ、ふたつ、みつ…… ほらいた おこずのが あたりまえだ。				I男:「くちべにー」と言い、ニヤリと笑う。 女:「くしくしく」と言う。
バスデーケーキを まるごとたべてたなんて!…… つながったまんま くちまった。				I男:最初の絵で「ありゃ、ありゃ」R子:「ありゃ、ありゃ」 Y子:次の絵で「あじゃ、あじゃ、あーん」 I男:笑う。 女、男(4、5人):笑う。
おきまで たべてたんですか? ほう、さかなをみつけた! ひらめですな	男(数人):「エヘヘヘ」 前のめりになる。 男:「ひらめですな」と聞き、 ニコッとする。 男:「ひらめってなに?」	女:絵を見て、何かつぶ やく。		I男、Y子:「ありゃ、ありゃー」 R子:「ウフフー」 男:「おー」 女、男(4、5人):笑う。 I男:「さかな…」で「なんでー?」、男:「さかなつりや」 I男:「なんでおなかの中であつりなんかなさるんだよ」と少し怒 ったように言う。 R子:「ひらめ…」で「フフフン」と言い、笑う。I男:笑う 女:「ぼうしまで入ってるとるうえ。」 女:「うん」
おやおや!おちゃだ!ポットにはいって! カップも!クッキーも! よくまあ こぼれもしないで。	男:ニコッとし、「こぼれもし ないで」で「イヒヒヒー」 女:笑った子を見て、微笑む。			I男:「ありゃりゃ?何で(ひらめが)とぶの?」と言い、笑う Y子:「ありゃー」、R子:笑う。 R子:「こぼれもしないで」のところで、I男に何か笑って言う
こいつは なんだろう? ひっぱってみよう。	男:ニコッとする。 男:「ハハハハハ」			I男:ニヤリと笑う。Y子:「あじゃー」 I男:「これは何だろう?」と少しニコッとして言う。
まあ うさちゃん!…… さあ、これでも おわりだな。	男:消えるような声で「ハハハ ハ」 男:ニコッとする。	A男:少し微笑む。		D男:「まあ うさちゃん!」のところでニコッとする
あら、わたしのくつとブーツだわ!…… さあ、これでも おわりだな。	男:「フフフ」 男:両手を伸ばして拍手。	男:ニコッとする。		I男:「自転車あるよ」とニヤッと笑いながら言う。 女:ニコリと笑う。
こっちへおいで。ながいこと いなかった わね。 いやはや まったく。 こんな ことが あるなんて。	男:「うわあー」と絵を指す。 男:「えーっ」と言っていて、 隣を見る。相手も笑い、 男:「自転車や!」 男:「エヘヘヘ」と数名が笑う			Y子:「ながいこと…」で驚いたように口を開ける。 Y子の隣の男児:驚いたように口を開ける。 I男:「あと、自転車や」と笑いながら言う。 I男:自転車の絵が提示されると「ほう、自転車、とニヤリと笑 って言う。
やっ と すんだ。やれやれ。				男:少しニヤッと笑う。 D男:ニヤッと笑う。
せんせい ありがとう。 ああ すっきりした。	女:後ろを振り向き、後ろの男 児の方を見て「エヘヘ」 と笑う。	A男:目を細めて「すっ きりしたー」と言 い笑う。		R子:「アハハハハ」。 R子の後ろの男児:笑う。 I男:「こんなやつたら今度帽子なくなるよ」 女(2名):「フフフ」と笑う。
さ、かせひくわよ…… どこへ行ってしまったらう?	男:「エヘヘヘ」と笑う。 男:ニコッと微笑む。	男:「こんなにたくさん 」と笑って言う。		
だれか わしのほうしを みなかったかね?	男:「食べたよ」 E男:「おしまい」			I男:「フフフー」と笑う。R子:微笑む。D男:「ウフフ」 I男:「おしまい」。R子:「まい」

## 奥 田 倫 子

表10 絵本「おばけがぞろぞろ」の反応記録一覧表

	子どもの言動			
	年月日	1990年11月1日	1990年11月1日	1990年11月15日
保育者		保母 A	保母 B	保母 C
対象児		B子・B男 (ばら組)	A男・C男 (きく組)	A子・D男 (ゆり組)
文	おばけがぞろぞろ			A子: 笑いながら「おばけがぞろぞろやて」と隣のG子に言う。
	びろーん		男: 「ワッハハハ」	始どの子: 「ハハハ」 A子: 「ハハハ」 D男: ニッコリ微笑む。
	もものりくん あそびましょ		J男: 「ウフフ」	I男: 「フフ」 D男: 微笑む。 男、女: ニヤリと笑う。
	はい、あそぼう ぞぞまるちゃん		女: ニッコリ笑い、「ぞぞまるちゃん」 男: 「ぞぞまるちゃん」と言い笑う。	「ハハハハハ」と何人か笑う。 A子: 口を開け、笑う。 D男: 目を細め、笑う。
	おろむかくーん、あそぼうよ			男: 「じゃじゃまるくん」と笑って言う。 始どの子笑う。 男: 「一つ目小僧見たいやね」 D男: 微笑む。
	うん、あそぼう	男: ニッコリ笑う。	男: ニッコリ笑う (2名)	男: 「ちっこい、一本足しかない」 男: 「ワハハハ」 D男: 微笑む。
	ぞんびえくん あそびましょ			男: “ぞんびえくん”という音楽で、すくっと起き上がり「ぞんびえくん、ぞんびえ」と言う。 A子: その男児の方を見て「ぞんべい、ぞんべえ、エヘ」と笑い、観察者の方を見る。
	にゅー	F男: 目を細め、ニッコリ笑う。 男: 「わあー」男: 笑う。		「アハハ」と大勢の子笑う。 A子: ニッコリ笑う。 D男: ニッコリ笑い、「へびねんよ」と小さくつぶやき、口もとでへびへびへびと繰り返す。
	おびるべちゃん あそびましょ	F男: 「イヒヒ」	男: ニッコリ笑う。	“おびるべちゃん”で大勢笑う。「フフフ」「いいとも」で半数くらいの子がくすくす笑う。 A子、D男: 目を細めて少し笑う。 D男: 「にゅー」と男児が言ったのを聞き、ニッコリ笑う。
	うめらくん あそぼうよ はい	C子: 「ウフフフ」 口で手を押さえ胸の子を見る。 男: 「きえーい」と言い笑う。 C子: 「きえーい」の子を見て笑う。 B男: 立って「きえーい」の子を見る。 F男: 口もとで笑う。	男: ニッコリ笑う。 男: 声を出して笑う。 女: ニッコリ笑う。	A子: 微笑む。 男: 「小さいおばけでるげーよ」 数名がニッコリ笑う。(数名) “はい”を保母が低い声で読んだので大勢が「フフフ」と笑う。 D男: ニッコリ笑う。
	ぞりんばちゃん あそぼう いいい!	男: 「いいい」と保母に先取りして言う C子: 胸の子の顔を覗き込んで笑う。	「フフフ」と笑う。 (男2名、女2名)	“あそぼう”で数名「フフフ」と笑う。 D男、A子: 微笑む。 “いいい”で数名「エヘヘヘ」「ウフフフ」と笑う。 D男: ニッコリ笑う。 A子: 「エヘヘ、アハハハ」 男: 「いいい」 A子「いいい、イヒヒヒ」と言い、隣のD男の顔を見る D男: A子を見て、ニッコリ笑い返す。
	あそぼう あそぼう ともだち さそって			
	しんごちゃん あそぼう!		男: 「〇〇〇しんご」と言い、ニッコリ笑う。(クラスの男児の兄の名)	A子: 保母が絵本を閉じると、笑って「おしまい」と言う

表12 A子のユーモア絵本に対する反応 (反応回数)

絵本名	反応	笑い	微笑	発言	行動	計
みんな うんち		0	3	3	0	6
ハバードばあさんといぬ		6	4	8	0	18
ママ、ママ、おなかがいいたいよ (1)		0	0	0	0	0
ママ、ママ、おなかがいいたいよ (2)		0	2	3	0	5
おぼけがぞろぞろ (1)		7	4	4	0	15
おぼけがぞろぞろ (2)		5	2	5	1	13

表14 B子のユーモア絵本に対する反応 (反応回数)

絵本名	反応	笑い	微笑	発言	行動	計
みんな うんち (1)		1	0	0	0	1
みんな うんち (2)		2	2	1	0	5
ハバードばあさんといぬ (1)		0	0	0	0	0
ハバードばあさんといぬ (2)		2	1	0	0	3
ママ、ママ、おなかがいいたいよ (1)		0(1)	0	0	0	0(1)
ママ、ママ、おなかがいいたいよ (2)		0	0	0	0	0
おぼけがぞろぞろ (1)		0	0	0	0	0
おぼけがぞろぞろ (2)		1	2	0	1	4

表16 D男のユーモア絵本に対する反応 (反応回数)

絵本名	反応	笑い	微笑	発言	行動	計
みんな うんち		0	1(1)	0	0	1(1)
ハバードばあさんといぬ (1)		0	0	0	0	0
ハバードばあさんといぬ (2)		0	0	0	0	0
ママ、ママ、おなかがいいたいよ (1)		1	2	0	0	3
ママ、ママ、おなかがいいたいよ (2)		0	0	0	0	0
おぼけがぞろぞろ (1)		0	11(1)	1	0	12(1)
おぼけがぞろぞろ (2)		0	4	0	0	4

表11 A男のユーモア絵本に対する反応 (反応回数)

絵本名	反応	笑い	微笑	発言	行動	計
みんな うんち		5	11	10	3	29
ハバードばあさんといぬ		1	3(1)	3	1	8(1)
ママ、ママ、おなかがいいたいよ (1)		1	1	1	0	3
ママ、ママ、おなかがいいたいよ (2)		1	1	3	0	5
おぼけがぞろぞろ (1) *		0	0	0	0	0
おぼけがぞろぞろ (2)		0	1	0	0	1

同一絵本の1回目の読み聞かせを(1)、2回目の読み聞かせを(2)と記入する。

表13 B男のユーモア絵本に対する反応 (反応回数)

絵本名	反応	笑い	微笑	発言	行動	計
みんな うんち		6	12	19	0	37
ハバードばあさんといぬ		5	7	8	3	23
ママ、ママ、おなかがいいたいよ		0	0(1)	0	0	0(1)
おぼけがぞろぞろ (1)		0	0	0	0	0
おぼけがぞろぞろ (2)		0	1	0	0	1

表15 C男のユーモア絵本に対する反応 (反応回数)

絵本名	反応	笑い	微笑	発言	行動	計
みんな うんち		1	2	1	1	5
ママ、ママ、おなかがいいたいよ		0	0	0	0	0
おぼけがぞろぞろ		0	0	0	0	0

## IV. 考 察

研究結果をもとに、各対象児について「園児調査表」「児童の発達状況」「保育経過記録」より得た資料を参考に、考察していくことにする。

## 1. A 男

ユーモア記録の分析表（表1）によると、最も頻度の高いのは“いたずら”であり、38例中15例であった。また他児には殆ど見られなかった“排泄や性に関する言葉”“排泄や性に関する行動”がそれぞれ5例、4例とみられた。さらに“言葉によるからかい”“行動によるからかい”が6例、3例とかなり多く、“行動によるからかい”が生じたのは、今回A男のみである。排泄や性に関する言動が多いのは、絵本反応と一致しており、『みんな うんち』では反応回数が計29回とB男に次いで多い（表11）。『ママ、ママ、おなかがいたいよ』では、「ああすっきりした」（表9）、『ハバードばあさんといぬ』では、「したぎ（下着）」（表8）という言葉に敏感に反応しており、笑いながら言葉を反復している。これは対象児に限らず、他児には全く見られなかった反応である。

観察記録で頻繁に見られた“いたずら”“からかい”は、3歳上の兄の影響をかなり受けているようである。例えば記録4では、A男が兄のふざけ行為を面白がって真似をし、自分も共に楽しんでいる様子が伺える。A男の兄のユーモアによく見られたふざけは、情緒不安定によるものが多く、これは、母子家庭で、母親が仕事を持ちつつ、資格を得るために専門学校に通うといった多忙さで、必然的に子どもの躾は厳しくならざるを得ないといった状況が原因と見られている。B男自身も情緒不安定な時期があり、発達記録には1歳児「気に入らないと、転がって泣いて暴れる。人を突然押したり、たたく。相手が泣くと、あわてて頭をなでる」、2歳児「登園後、すっきり母親と離れられず、兄のもとで過ごす」「柿の種、ミニカー、輪ゴムなどに執着し、なくなると大泣きして、遊びにも入れなくなることがある」など記され、周囲の気を引こうとトラブルを起こすことが多いとその後も記載されている。A男の観察記録にも、記録25のように次々と相手を傷つける言葉を発する行為が見受けられる。しかし本心からではなく、不安定な気持ちの現れとも言えよう。さらに“いたずら”“からかい”は単に情緒不安定の現れのみでなく、友達との関わりを求めて行った行為とも解釈できる。A男は早い時期から友達を求め、特に年上の子どもに進んで関わろうとしてきた。記録8の年長の男児との言葉のやりとりもその一例である。

A男は集団で何かをしようとする時、離れたところで見えていたり、ふらふらしたりと注意散漫になることが多い。ユーモア記録にも、唾を吐いたり、つまみ食いしたり、隣の子にちょっかいをかけたりなど、保母の手をわずらわせる行動と結びついているものが多い。しかしこれらの行動の中には、A男の不安定な思い、あるいは友達との関わりを求める手段が含まれていることを考えると、A男を違った角度から評価し、関わりの手立てを見つけることができよう。

## 2. A 子

観察記録の分析表によると、頻度の高い順に、“不一致を引き起こすこと”“いたずら”

“言葉のリズムや音によるもの”であり、それぞれ29例中、18例、7例、4例含まれている（表2）。中でも“不一致を引き起こすこと”（例えば記録24）は全体の半数以上を占めており、絵本の読み聞かせにも、この傾向が現れている。『ハバードばあさんといぬ』では、最初から面白さを感じとり、目立って反応していた女兒1（4歳児）に刺激されたとも考えられるが、「犬ってさかだちしんよ」「犬って眼鏡かけんよー」と矛盾を理解している様子である（表8）。“不一致を引き起こすこと”とは、概念に矛盾したことを生み出すユーモアである。McGhee（1979）らの研究によれば、認知発達の段階とユーモアのレベル、すなわちどの程度の矛盾を理解できるかとの間に何らかのつながりがあるとされており、A子もこのような矛盾を感知、理解できる認知発達の段階にいと考えられる。また概念の矛盾を生み出す行動は、“見立て”や“ふり”と呼ばれ、幼児期の特性として知られている。A子は2歳児より頻繁にごっこ遊びをするようになり、空想の世界で遊ぶことが多く、発想の豊かさ、A子のユーモアのセンスと結びつくとも考えられる。

“言葉のリズムや音によるユーモア”については、例えば記録4の「どんどん、がったーん、どんどん、がったーん」のように、ユーモラスな音を作り出すことがA子には頻繁にみられる。言葉や音への敏感さは、発達の記録にも「会話がはずみ、一日中しゃべっている。遊びながら歌をよく歌い、絵本を読むと一緒に言葉を使う」（1歳児3学期）と記されている。また絵本の読み聞かせの反応数も多く、発言が多いのも特徴である（表12）。A子は、発想や表現の豊かさ、言葉や音への興味、知的好奇心、持ち前の明るさ、意欲や自主性などのパーソナリティと結びついて、周囲の気持ちをパッと明るくさせてくれるような、健全なユーモアの発達を遂げているように思われる。

### 3. B 男

ユーモア観察記録の分析表によると、言葉のユーモアが12例、行動のユーモアが7例と、対象児の中で、全体に対する言葉のユーモアの占める割合が最も高い（表3）。特に記録10の言葉や発想の豊かさは、B男ならではのユーモアである。読み聞かせ結果も一番多い反応が“発言”であり、文字に興味を持っていることに起因しているようである（表13）。絵本の文を口に出して言うのは、文字が読めることが嬉しくてたまらず、その素直な気持ちの現れなのであろう。B男の文字への興味はかなり早い時期に芽生え、1歳児2学期の記録には「とにかく、よくしゃべる」「絵本をよく見ている」と記され、現在も持続している。

絵本『ハバードばあさんといぬ』の中では、「へえ、犬がダンチュするけ？人がダンチュするよ」「お父さん新聞読むがに、なんで犬が新聞読むが？」と発言しており、概念の矛盾を理解している様子である（表8）。これはA子の時にも述べたとおり、認知発達と結びついているようである。B男の知的発達の状況を発達記録より見ていくと、1歳児では「人のことをよく観察し保育者に知らせる」「色や形の識別ができる」「モノの名前を尋ねる」、2歳児では「大人のしていることに興味を持つ」と記され、大変知的好奇心の強いことが伺われる。このような知的好奇心の強さが、言葉への関心となり、言葉のユーモアとして表出されるのであろう。また語彙

## 奥 田 倫 子

が増えることにより、概念の形成も進み、矛盾を感知、理解でき、B男のユーモアを特徴づけていくように思われる。

## 4. B 子

観察記録の分析表によると、自分から生み出したユーモアと、ユーモアに対する反応がそれぞれ30例中19例ずつであった(表4)。全体に占めるユーモア反応の割合は、対象児の中で最も高い。このユーモア反応を具体的に見てみると、他者のユーモア言動の真似をする場合が多いようである。記録1はおやつの時間に流行りだした遊びを、真似している例である。自分のテーブルよりも、盛んにやりとりしている隣のテーブルの子どもに向かって尋ね、楽しさを分かちあおうとしている。また「アッハッハ」「あーっ、割れたー!」と積極的に楽しんでいる様子も伺える。記録14では、C子やF男のずっこけを真似、自分も共におかしさを表現し、その場の楽しさを共有しようとしている。

友達の真似をするのは、自分もおかしさや楽しさを感じていること示す手立てであり、相手側も自分に共感し共に楽しんでもくれる存在を知り、遊びが活性化され、相互のつながりも深まるのである。B子の場合、どの真似にも有声の笑いを伴っていることから、相手側は真似をしていること、共に楽しんでいることをはっきりと知ることができるだろう。また真似と共に、記録に見られたはしゃぎ、いたずら、おどけ、大笑いなどの言動は、自分の方に注意を向けようとしている行為と解釈できるだろう。発達記録には、2歳児「自分の周りで遊んでいる子にも時々働きかけるが、自分の世界で遊ぶことが多い。やりとりもあまり長続きしない」「数人の友達の中にいることを好むようになるが、並行遊びが多い」と記されている。また2歳児から3歳児に移行した時、その変化に対応するのに時間がかかった1人である。友達を求める気持ちは強くても満たされない時もあり、不安的な状態となるからこそ、ますます相手を誘いかけようとするユーモアを用い、相手のユーモアに敏感に反応しているのではないだろうか。

ユーモア絵本の反応回数は少なく(表14)、他児のユーモアに敏感に反応するからといって絵本のユーモアを感知、理解できるとは、B子の場合、言えないようである。これは前者が他者との関わり合いのきっかけを求め、深める手立てとして生じているゆえであろう。どの程度絵本のおかしさを感知できるかどうか、読み聞かせの場の雰囲気(かなり神経質にVTR撮影を意識していたよう)などにも留意しつつ、探っていく必要がある。B子は、観察当初より笑いやユーモアの目立つ対象児であった。反面、その陽気さが一転することもあった。今後ユーモアが生まれる場面とそうでない場面の違いを注意深く観察し、友達との関わりが安定するようになると、ユーモアがどのように変化していくのか探っていく必要がある。

## 5. C 男

C男のユーモア記録の中では、“おどけた格好をすること”が13例中8例と、半分以上を占めており、ユーモアに対する反応が一つも含まれていないことも特徴である(表5)。同様の結果がユーモア絵本に対する反応からも伺われ、頻度が少ない(表15)。但し、読み聞かせ冊数が3冊と対象児の中で最も少ないことにも留意しておく必要がある。



C男は、普段より大変“ユニークな子”として知られ、食事がいらなくなると机の下に潜る、午睡の時には布団にかぶせてあるシーツの中に潜り込んで眠るなど、大人の笑いを誘う言動が多い。観察記録にも記録9のようなユニークな行動、記録5のような相手の意表をつく言葉が見られる。また全般的に、C男のユーモアは他者を笑わせようとしたり、他者と関わる手立てとして生まれた意図的なものというより、自然に表出されたものが多いようである。そのためか、C男のユーモアに最も反応し、おかしさを覚えるのは大人であり、C男のユーモア記録に他児が反応している例は今のところ殆ど見られない。C男が友達との関わりを楽しむように成長するにつれ、ユーモアが意図的なものへと変わっていくのか、また現在どちらかという大人に楽しまれているC男のユーモアを、他児がどのように受け止めていくのか興味深い。

担任保母らの話によると、C男の祖母も母親も大変ユニークで楽しい人であるが、2歳年上の兄には、特にそのような特徴は見受けられないとのことである。C男のユーモアは、家庭の雰囲気の影響を受け、ある種の遺伝的な要因として受け継がれたものだろうか。C男の家庭環境とユーモアとの関連性について、さらに明らかにしていく必要がある。

## 6. D 男

D男のユーモア記録の中では、ユーモアとは判断しにくい、単語やリズムを繰り返し唱え楽しむ様子が伺われ、言葉の発達との関連が深いようである。発達記録によると、1歳児「“ブーブー” “バイバイ” しかでない。人と言葉のやりとりができない分、身体に触れられるとギャアと急に大泣きすることが頻繁」「“バス、パパ、ちっち、まて、とって、せんせ” との単語がでるが、友達との会話はなし」、2歳児「大人の質問に対して的はずれの返答あり。保母“おやすみ” C男“こいのぼり” 等」「興味のある乗り物のことはよく単語や話（独り言）ができるが、コミュニケーションとしてのやりとりができない」、3歳児「オウム返しが多く会話にならなかったが、少しずつ簡単な返答ができるようになる」など記されている。観察記録では、例えば記録3は「あつぷ」、記録5は「しゃいこーう、ハイ」、記録6「うるさーい」をそれぞれ何度も繰り返し楽しんでいることがわかる。これは新しく獲得した言葉を楽しみ、確認しているためであろう。しかし周囲がD男の言わんとすることを理解できないために、記録5の場合、向かいの席の男児より乱暴な言葉が返ってくるが、記録6では、周囲の子どもがD男の言葉を面白がり、それなりに受け入れ始めていることがわかる。

1990年10月に入ってから保護者会で、D男の母親はこのような言語発達の状況について知らされると、早速金沢市教育センターに連れていき、言語教室に通院させることにした。これはD男にとって大きな転機となった。母親が自分のことを気に掛けていると知ると、D男の行動が急激に変化していったのである。従来殆ど見られなかった、声を出して笑う、友達を叩く、ふざけるなど活発な行動が増加し、友達との関わりを求めるようになった。

ユーモア絵本の反応では『おばけがぞろぞろ』の反応数が比較的多くみられ（表16）、『ママ、ママ、おなかがいたいよ』でも矛盾のおかしさを感知している様子であった（表9）。D男の言語能力から簡単に知的発達を判断するのは危険であろうし、分かっているもうまく他者に伝え

ることができないことを考慮していかなければならないであろう。今回の言語教室への通院をきっかけに、D男が活発に行動するようになると、今後どのようなユーモアが芽生えてくるのか興味深い点である。また、記録6のようにD男の的はずれ、ナンセンスな言葉に他児が注目し、共に楽しむことが発端となって、友達との関わりが増えていくことも考えられるであろう。

## V. 今 後 の 課 題

今回は子どものユーモア個人差研究の第一回目として、ユーモア観察記録及びユーモア絵本の反応記録をもとにまとめてみた。今回はっきりしたのは、子どものユーモアは大人同様多様であり、どの子にもそれぞれの特徴を持ったユーモアが現れている点である。対象児を特に6人に絞り、それぞれのユーモアについて分析を行ったが、結果として、各対象児の置かれている家庭環境、発達の状況、パーソナリティーと関連が深いことが予測できた。しかし、特定の対象児と特定の要因との結びつきを今の時点で断言することは危険であり、さらに検討していく必要がある。その検討方法として、本研究の反省も踏まえ、次のことに留意、工夫していくこととする。

1. ユーモアのカテゴリーをもう一度見直し、それぞれの定義をはっきりさせることである。観察記録を分析していく中で、特に“驚き”“意外性”に基づいたおかしさを、どのカテゴリーに分類してよいのか曖昧であった。また緊張より解放された時の笑い、嬉しい時や楽しい時の陽気な言動など、おかしさと直接結びついていないが、ユーモアと関連した言動をどう取り扱って良いのか、今後明らかにしていく必要がある。

2. それぞれの観察事例をカテゴリーに基づいて分析する方法は、各対象児のユーモアの傾向を知る上で良かったと思う。しかし今後、より正確で客観的なデーターを入手するためにも、筆者だけでなく複数の評定者が必要である。このことはユーモア絵本反応の記録についても言えることであって、複数で反応を記録、評定する必要がある。

3. 対象児の言動の意味を探るために、どの記録も対象児が置かれている状況を詳しく書き取るように心掛けたのは、手間のかかる作業であったが、一応成果があったように思われる。特になぜ生じたのか、誰の影響によるものかなど分析することができた。今後も継続しこの方法で進めていきたい。

4. ユーモアと家庭環境の関わりであるが、これははっきりと結論の出にくいテーマのようである。しかし、親の子どもへの言葉かけ、関わり方を分析し、また親自身のユーモアのセンスを調べるために、実験やアンケートを実施することで、ある程度の手掛かりが得られるように思われる。さらに、兄弟姉妹のユーモアとの関係も、A男の例で見られたように、兄のユーモアの真似をすることによって共に楽しみ、そこで得たユーモアを自分のユーモアとして取り入れることも可能である。どういう点に影響を受け、どういう点はその子独自のものなのか、兄弟姉妹の言動との関わりを中心に調べていく必要がある。

5. 今回の研究ではまだ仮説の段階である、対象児のユーモアと認知発達、言語発達、社会

性の発達との関わりも、今後保育記録だけでなく、各種の方法を用いて調べていかなければならない。そしてA子の“見立て”や“発想”の豊かさで示されたように、創造性との関わりも解明していく必要がある。

#### 参 考 文 献

- Foot, H. C., Chapman, A. J. and Smith, J. R.: Friendship and social responsiveness in boys and girls. *Journal of Personality and Social Psychology*, 1977, 35 (6), 401-411.
- 平井信義、山田まり子：子どものユーモア ―おどけ・ふざけの心理―、創元社、1989.
- McGhee, P. E.: *Humor: Its Origin and Development*. San Francisco: W. H. Freeman and Company, 1979.
- McGhee, P. E. and Lloyd, S.: Behavioral characteristics associated with the development of humor in young children. *The Journal of Genetic Psychology*, 1982, 141, 253-259.
- 奥田倫子：子供のユーモアに関する研究（その1）、北陸学院短期大学紀要，第19号，83-96，1987.
- 奥田倫子：子どものユーモアに関する研究（その2）、北陸学院短期大学紀要，第20号，25-48，1988.

終わりに、本研究にあたって、貴重な時間と労力を提供して下さり、快く筆者を受け入れ、協力して下さった金沢市の梅光保育園の斎藤千代園長、諸先生方に深く感謝申し上げます。